

- 問1 群馬県川場村では、東京都世田谷区と協力して、共同の研修施設や保養所を建設したり、区内の祭りにおいて農産物の販売を行ったりしています。このような取り組みの背景にある、農村が抱える課題と目的の説明として最も適切なものはどれですか。（2018年 広島県公立入試 類似）
1. 都市部の過密問題を解決するために、都市住民のすべてを農村へ完全に移住させ、人口の均等な配置を実現すること。
  2. 農村に大規模な工場を誘致し、工業製品を都市部へ大量に出荷することで、農業に代わる新しい産業を確立すること。
  3. 農地の維持をあきらめ、すべての土地を都市住民のためのゴルフ場やレジャー施設に転換し、観光収入のみで村を維持すること。
  4. 過疎化が進む農村において、農業体験や直売所での販売を通じて地域の魅力を高め、交流の拡大によって地域を活性化させること。
- 問2 日本の住宅用太陽光発電の普及状況について、都道府県別の設置割合を比較した際に、設置割合が低い地域に見られる地理的・気候的な共通点として最も適切なものはどれですか。発電効率に大きく関わる日照時間の観点から答えなさい。（2023年 秋田県公立入試 類似）
1. 冬の季節風の影響で曇天や降雪の日が多く、年間を通じて日照時間が短い日本海側の地域
  2. 標高が高く年間の平均気温が低いため、精密機器であるパネルの動作が不安定になる内陸の山岳地域
  3. 夏から秋にかけて台風の通過経路となりやすく、強風や降水の影響を受けやすい太平洋側の地域
  4. 梅雨の時期が長く湿度が非常に高いため、機器の腐食が進みやすい瀬戸内海沿岸の地域
- 問3 就業者の約40パーセントが第2次産業に従事しており、その割合が全国平均と比較しても高い水準にある自治体があります。このような産業構造を持つ地域で見られる背景として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2025年 神奈川県公立入試 類似）
1. 情報技術（IT）産業の拠点が置かれ、プログラミングやシステム設計を行う者が急増している。
  2. 高速道路のインターチェンジ周辺などに工業団地が誘致され、多くの製造現場が稼働している。
  3. 歴史的な街並みを活かした観光業が主軸であり、宿泊業や飲食業の従業者で占められている。
  4. 都市近郊に位置し、新鮮な野菜を供給するための近郊農業が極めて盛んに行われている。
- 問4 日本の産業構造や食料事情を説明した記述のうち、近年の漁業の動向とその背景について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 沖縄県公立入試 類似）
1. 水産資源を維持・管理するため、稚魚を放流して育てる方法や、成魚まで管理して育てる漁業への移行が進んでいる
  2. 日本の食料自給率はドイツやイギリスなどの主要なヨーロッパ諸国を上回っており、水産物の供給も安定している
  3. 農地あたりの収穫量を高める技術が漁業にも応用された結果、沿岸部での大規模な大規模開発が進み、生産量が急増している
  4. 海外からの木材輸入量が年々増加していることを受け、漁船の資材を木材から鋼鉄へ切り替えることで効率化を図っている
- 問5 近年、日本の物流において、効率的な貨物輸送を行うために輸送手段の組み合わせを見直し、鉄道や船の利用を増やす動きが進んでいます。このようにモーダルシフトが進められている背景の説明として、最も適切なものはどれですか。（2025年 徳島県公立入試 類似）
1. 鉄道や船による輸送は、自動車による輸送に比べて戸口から戸口へのきめ細かな配送が容易になるため。
  2. トラックの排気ガス規制が強まり、自動車による貨物輸送が法律で全面的に禁止されることになったため。
  3. トラックドライバーの不足に対応するとともに、自動車から排出される二酸化炭素を削減して環境負荷を軽減するため。
  4. すべての貨物輸送を長距離フェリーに置き換えることで、輸送にかかる燃料費を完全にゼロにするため。
- 問6 宮崎平野や高知平野などの冬でも温暖な地域において、ビニールハウスなどを活用して作物の成長を早め、他の産地よりも出荷時期を早めることで収益を上げる栽培方法を何といいますか。（2017年 愛媛県公立入試 類似）
1. 促成栽培
  2. 二毛作
  3. 抑制栽培
  4. 近郊農業
- 問7 ある地域の気候統計において、一月の平均気温が零度以上であり、かつ九月の降水量が二百ミリメートルを超えていることが確認できました。このような気候条件が、茶の栽培に適しているとされる理由について述べた文として適切なものはどれですか。（2020年 滋賀県公立入試 類似）
1. 茶の収穫時期に重なる一月の気温を氷点下を保つことで、害虫の発生を防ぐ必要があるから。
  2. 茶の品質を高めるためには、八月の降水量を抑えて乾燥させることが不可欠だから。
  3. 年間降水量が二千ミリメートルを超える地域では、根腐れを防ぐために九月の雨量制限が必要だから。
  4. 冬場の寒冷な風を避ける必要があるため、一月の気温が零度を下回らないことが重要だから。
- 問8 主要な化石燃料のうち、サウジアラビアなどの「中東」や「北米」における産出割合が特に高く、現代社会において自動車の燃料やプラスチックの原料として欠かせない資源を選択してください。（2023年 大分県公立入試 類似）
1. 水力
  2. 石油
  3. 石炭
  4. 天然ガス
- 問9 1985年から2010年にかけての日本における米の需給バランスについて、生産量は減少傾向にありますが、自給率は約100%という高い水準で推移しています。このように生産量が減っているにもかかわらず、自給率が維持されている理由として最も適切な説明はどれか。（2016年 香川県公立入試 類似）
1. パンや麺類の消費が減り、国民の米に対する需要が再び高まったため
  2. 食生活の変化によって米の消費量も並行して減少しているため
  3. 品種改良によって単位面積あたりの収穫量が飛躍的に増加したため
  4. 政府が米の輸出を強力に推進し、海外市場での需要を拡大させたため
- 問10 東日本大震災後の日本において、停止した原子力発電の不足分を補うために、二〇一九年度の統計で全体の八割以上を占めるまでに割合が増加した発電方式と、その主な燃料の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2022年 高知県公立入試 類似）
1. 水力発電（河川の水）
  2. 火力発電（天然ガス・石炭など）
  3. 地熱発電（火山などの熱）
  4. 再生可能エネルギー（太陽光・風力など）
- 問11 日本とオーストラリアの貿易について説明した文として、統計的な事実に基づき適切なものはどれですか。なお、日本からオーストラリアへの輸出総額は約1兆5000億円でそのうち乗用車が約38%を占め、オーストラリアからの輸入総額は約5兆900億円でそのうち牛肉が約3%強を占めているものとします。（2017年 香川県公立入試 類似）
1. オーストラリアとの貿易において、日本の輸出総額は輸入総額を上回っている。
  2. 乗用車の輸出額は、牛肉の輸入額を大きく上回っている。
  3. 牛肉の輸入額は、乗用車の輸出額を上回っている。
  4. 乗用車の輸出額は、日本からの輸出総額の半分以上を占めている。
- 問12 宮崎県で盛んなピーマンの栽培と、長野県で盛んなレタスの栽培は、どちらも自然環境の特色を活かして出荷時期を調整しています。これらの農業形態に共通する背景や目的についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2026年 岐阜県公立入試 類似）
1. 消費地である大都市から遠いため、輸送コストを抑えるよりも、他の産地の品薄な時期を狙って高い価格で販売することを目指している。
  2. 広大な土地を利用して、同一の作物を1年に2回栽培する二期作を行うことで、生産量を最大化することを目指している。
  3. 大都市の近郊であることを活かして、鮮度を保ったまま野菜を即座に出荷することで、輸送費を最小限に抑えることを目指している。
  4. 冷害や干ばつなどの自然災害の影響を避けるために、あえて本来の気候とは逆の季節に成長するよう品種改良を行うことを目指している。

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                        |                                                                                                                                                                                                                         |
|-----|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 4<br>過疎化が進む農村において、農業体験や直売所での販売を通じて地域の魅力を高め、交流の拡大によって地域を活性化させること。    | 川場村と世田谷区の事例は、都市と農村が互いの資源を活かして補完し合う関係を目指したものです。農村側は農業という基盤を維持しながら、都市住民に農業体験の場や安全な食料を提供し、その対価として地域の経済的活力を得ています。これは、単に工場を呼んで工業化したり、無理に居住地を移したりするのとは異なり、交流を通じて持続可能な地域社会をつくろうとする試みです。                                        |
| 問2  | 答え 1<br>冬の季節風の影響で曇天や降雪の日が多く、年間を通じて日照時間が短い日本海側の地域                       | 日本の気候において、冬の北西季節風は日本海側に雪や厚い雲をもたらします。これにより、日本海に面した地域では冬季の日照時間が極端に短くなり、太陽光発電のメリットが十分に得られにくいという背景があります。その結果、全国的な統計において日本海側の県は設置割合が低くなる傾向にあります。                                                                             |
| 問3  | 答え 2<br>高速道路のインターチェンジ周辺などに工業団地が誘致され、多くの製造現場が稼働している。                    | 第2次産業（特に製造業）の割合が高い地域は、企業を誘致するために工業団地が整備されている場合が多いです。高速道路のインターチェンジ付近は交通の利便性が高いため、部品の輸送や製品の出荷に適しており、多くの工場が集積します。その結果、周辺住民の雇用が製造業に集中し、第2次産業の就業者割合を押し上げる要因となります。IT産業や観光業は第3次産業に分類されるため、注意が必要です。                             |
| 問4  | 答え 1<br>水産資源を維持・管理するため、稚魚を放流して育てる方法や、成魚まで管理して育てる漁業への移行が進んでいる           | 日本の漁業は、かつてのように遠くの外で大量に捕獲するスタイルから、栽培漁業や養殖業といった「育てる漁業」に重点を置くようになっています。これは、乱獲による資源不足の防止や、外国の規制強化に対応するための変化です。なお、日本の食料自給率は先進国の中で低い水準にあり、ドイツやイギリスを上回っているという記述は誤りです。また、木材輸入の増加は漁船の材質変化の直接的な要因ではありません。                         |
| 問5  | 答え 3<br>トラックドライバーの不足に対応するとともに、自動車から排出される二酸化炭素を削減して環境負荷を軽減するため。         | 自動車による貨物輸送は小回りが利く一方で、トラックドライバー不足や二酸化炭素の排出といった問題を抱えています。そのため、輸送手段の組み合わせを再検討し、一度に大量の荷物を運べる鉄道や船へと転換するモーダルシフトが進められています。                                                                                                     |
| 問6  | 答え 1<br>促成栽培                                                           | 黒潮の影響を受ける宮崎県や高知県などの温暖な気候を活かした農業の形態です。ビニールハウスなどの施設を利用して、本来の収穫時期よりも早い時期に野菜（ピーマン、ナス、キュウリなど）を栽培します。これにより、他の産地の出荷が少ない時期に市場へ供給できるため、農産物を高い価格で販売することが可能になります。                                                                  |
| 問7  | 答え 4<br>冬場の寒冷な風を避ける必要があるため、一月の気温が零度を下回らないことが重要だから。                     | 茶の栽培には、年間を通して温暖で降水量が多い環境が適しています。冬の寒さが厳しい地域では茶の木が枯れてしまうため、一月の平均気温が零度を下回らないことが重要です。また、九月の降水量の多さは、秋から冬にかけての木の状態を良好に保つために寄与します。一方で、八月の降水量が最多である必要や、年間降水量が二千ミリメートル以上でなければならないといった厳格な条件はありません。                                |
| 問8  | 答え 2<br>石油                                                             | 中東地域（西アジア）やアメリカ合衆国などで産出量が多いのは石油です。石油は液体であるためパイプラインやタンカーでの輸送に適しており、動力源としてだけでなく化学工業の原料としても広く活用されていますが、産出地域の偏りが大きいため供給の安定が国際的な課題となります。                                                                                     |
| 問9  | 答え 2<br>食生活の変化によって米の消費量も並行して減少しているため                                   | 日本では、食の欧米化や多様化に伴い、国民一人あたりの米の消費量が年々減少しています。自給率は「国内生産量÷国内消費量」で算出されるため、生産量が減少しても、それと同じペースで消費量も減少していることから、結果として自給率は約100%という高い数値を維持することになります。                                                                                |
| 問10 | 答え 2<br>火力発電（天然ガス・石炭など）                                                | 東日本大震災後、急激に減少した原子力発電による電力を補うため、日本では天然ガス（LNG）や石炭、石油を燃料とする火力発電への依存度が非常に高くなりました。二〇一九年度の統計でも依然として八割を超える高い水準にあり、二酸化炭素の排出量削減や、燃料の海外依存度を下げることが現代日本の大きな課題となっています。                                                               |
| 問11 | 答え 2<br>乗用車の輸出額は、牛肉の輸入額を大きく上回っている。                                     | 日本とオーストラリアの貿易構造を金額で見ると、乗用車は約5700億円（1.5兆円の38%）の輸出額であるのに対し、牛肉は約1500億～2000億円程度（約5兆円の3%強）の輸入額にとどまります。このため、特定の品目同士を比較した場合は工業製品である乗用車の輸出額の方が、農産物である牛肉の輸入額よりも大きくなります。一方で、貿易総額全体では資源などの輸入が多いため、日本の大幅な輸入超過（貿易赤字）となっている点に注意が必要です。 |
| 問12 | 答え 1<br>消費地である大都市から遠いため、輸送コストを抑えるよりも、他の産地の品薄な時期を狙って高い価格で販売することを目指している。 | 宮崎県や長野県は、東京などの大消費地から距離があるため、近郊農業に比べて輸送費がかかるという不利な点があります。しかし、温暖な気候（宮崎）や冷涼な気候（長野）といった地域の特性を最大限に利用し、他の産地が出荷できない時期（端境期）に合わせて出荷することで、高い販売価格を得る経営戦略をとっています。これを「輸送園芸農業」の一部として捉えることもできます。                                       |